

(新) 生物多様性条約第10回締約国会議及びカルタヘナ議定書第5回締約国会議関係経費	1,413百万円(0百万円)
((うち会議開催のため各省で分担する経費))	1,113百万円(0百万円))

自然環境局 自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室

1. 事業の概要

国内外の生物多様性の保全に向けた取組を推進するため、2007年(平成19年)1月に、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)及びカルタヘナ議定書第5回締約国会議(MOP5)の我が国への招致に係る閣議了解が行われた。

これに基づき、COP10及MOP5の開催地として立候補していたが、昨年5月にドイツ・ボンで開催されたCOP9において、2010年のCOP10及MOP5を愛知県名古屋市で開催することが決定された。

このため、生物多様性条約及びカルタヘナ議定書に関係する各省及び地元自治体等と連携して、COP10及MOP5を開催するものである。

COP10及MOP5の開催に必要な会場設営、途上国大臣の招聘、条約事務局支援及び職員の派遣等を行う。

なお、会議開催に要する経費は、その性格を勘案した上で国と地元地方公共団体等が分担することとし、国負担分は各省が関係するものであることから、会議への関与の度合いにより以下のとおり関係各省が経費を分担する。

環境省・外務省：各30/100

農林水産省：20/100

経済産業省・文部科学省・厚生労働省・国土交通省：各5/100

2. 事業計画

平成22年度 COP10及MOP5の開催

3. 施策の効果

COP10及MOP5を開催するとともに、議長国としてリーダーシップを発揮する。

生物多様性条約COP10及びMOP5の開催

開催地：愛知県名古屋市

開催期間：平成22年10月11日～29日

参加者：締約国及び非締約国政府、国連機関等国際機関、地方自治体、NGO等

開催に係る共通経費

政府要員等派遣旅費

- ◆ 会議室設営
- ◆ 関係者作業室
- ◆ 機能・展示スペース
- ◆ 会議場設備・機材・車両等
- ◆ プレスセンター
- ◆ 現地スタッフ
- ◆ 招聘
- ◆ 政府主催関連行事
- ◆ 広報・啓発 …等

条約拠出金

関係省庁による分担比率

環境省30%、外務省30%、農水省20%、
経産省・文科省・厚労省・国交省 各5%



(新) 生物多様性条約第10回締約国会議及びカルタヘナ議定書第5回締約国会議関係経費	1,413百万円(0百万円)
((うち会議成功のために環境省が負担する経費))	300百万円(0百万円))

自然環境局 自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室

1. 事業の概要

COP10には多くの課題(ポスト2010年目標、遺伝資源へのアクセスと利益配分など)があり、我が国は議長国として合意形成のための会議等を開催するとともに、我が国の取組を紹介するため以下の事業を行う。

- (1) COP10主要検討課題の取りまとめに係る政府間会合の開催(196百万円)
COP10の開催に向けて主要関係国等との意見調整が必要な事項について地域対話協議及び政府間会合の開催等を行う。
- (2) COP10会議主要議題に関するワークショップの開催(26百万円)
各国政府以外にもNGO、企業等多様な主体が一堂に会するCOP10での合意形成のための効果的な議論の場を確保するため、当省が中心的な役割を担う主要議題に関するワークショップを条約事務局と共同開催し、情報共有・意見集約を促進する。
- (3) 生物多様性条約COP10ジャパンデー事業(78百万円)
COP10に参加している各国政府代表、国連機関、NGO等を対象とし、日本の地域の自然や歴史、文化を含め、我が国の生物多様性保全の取組みに関する理解を深め、また各国の取組みの促進につながるように、COP10ジャパンデーを設け、現地における調査、意見交換会等を行う。
(注) 従来より、開催国の取組を紹介する事業は毎回実施されている。

2. 事業計画

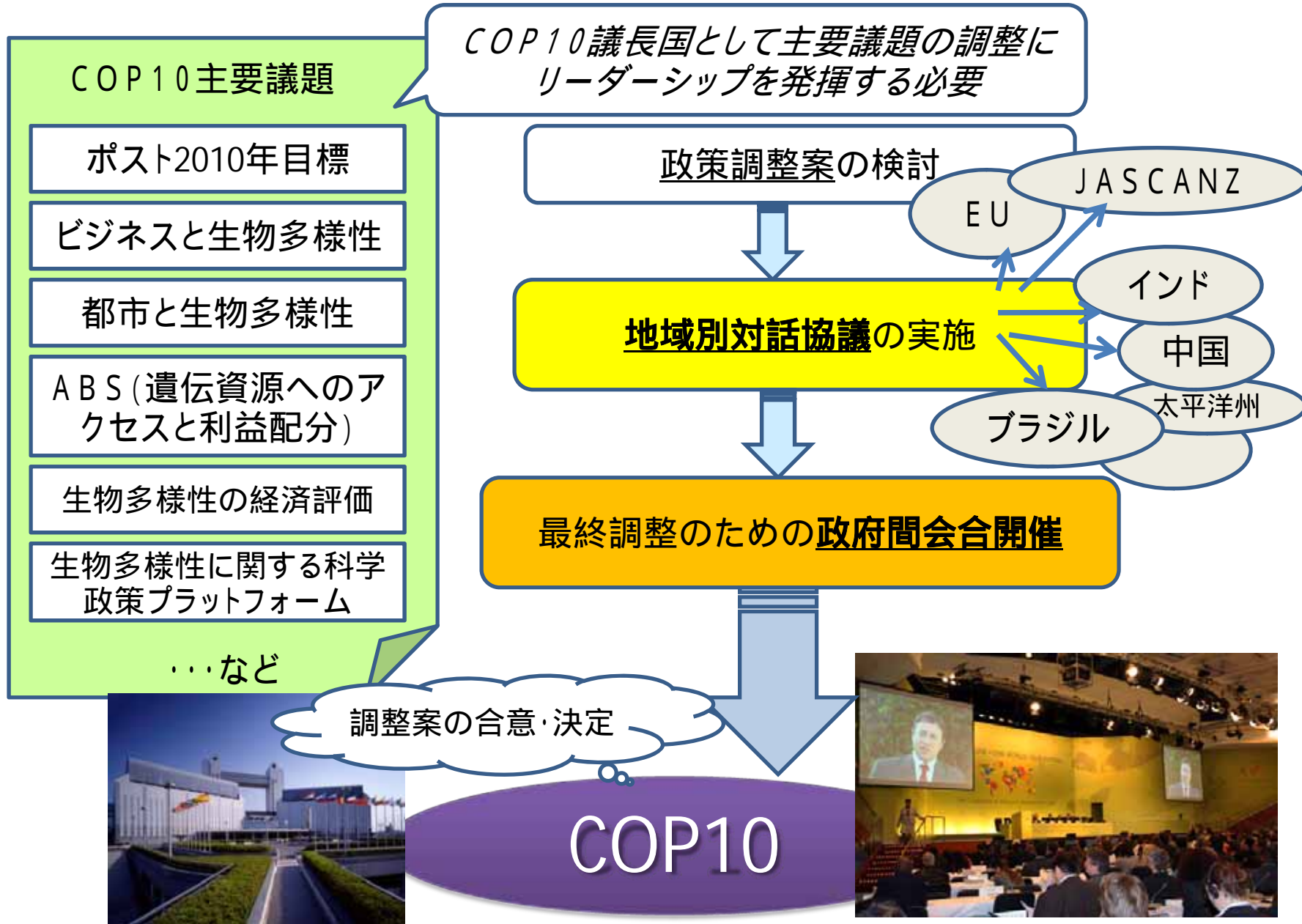
平成22年度

- (1) 重要課題(ポスト2010年目標、遺伝資源へのアクセスと利益配分、生物多様性の経済評価、ビジネスと生物多様性など)の政策調整案の検討・地域対話協議開催・最終調整のための政府間会合開催
- (2) COP10開催期間中のワークショップの開催(生物多様性の評価・指標、生物多様性と経済評価に関する研究プロジェクト(TEEB)、ビジネスと生物多様性、都市と生物多様性、ICRI/サンゴ礁保護区ネットワーク)
- (3) ジャパンデー検討委員会の開催・現地調査、意見交換会等の実施・掲示パネル・パンフレット作成(4地域、6カ国語)

3. 施策の効果

- ・COP10議長国としてのリーダーシップを発揮し、COP10での合意形成を通じ、条約決議の履行や活動の実践を促し、地球規模の生物多様性保全推進に貢献。
- ・各国政府代表、国連機関、NGO等の我が国の生物多様性についての理解促進。

COP10主要検討課題の取りまとめに係る政府間会合



生物多様性の評価・指標等COP10会議 主要議題に関するワークショップの開催

参加者1万人
多様な主体が
一堂に会する

生物多様性条約COP10

2010年10月：愛知県名古屋市開催

COP10の実質討議の場

様々な課題が山積み

ワーキンググループ会合本体

情報共有の
時間が足りない
議論の時間が
足りない
合意形成が
難しくなる

効果的な
議論の場
の確保が
不可欠

情報共有・
意見集約の
フィードバック

議長国として
リーダーシップ
を発揮！
ワーキング
グループ会合
の活性化！

主要議題に関するワークショップの開催

生物多様性の
評価・指標

- ・GBO3 の過程を共有
- ・2010年以降の指標や評価手法について討議

地球規模生物多様性
概況第3版

生物多様性と
経済評価に
関する研究
プロジェクト

- ・生物多様性の経済価値の試算結果の公表等

ビジネスと
生物多様性

- ・民間参画ガイドライン、エコプロダクツ展、日本経団連生物多様性宣言等、我が国のビジネス界の動きを報告

都市と
生物多様性

- ・我が国の優良事例を基に国際自治体会議への提案内容等を討議

ICRI/
サンゴ礁保護区
ネットワーク

- ・東アジア地域優良事例を基にネットワークの世界展開について討議

生物多様性条約COP10ジャパンデー事業

企画

現地調査、意見交換会等の
実施に係る検討会

コースの検討

展示物の作成

資料集の作成

翻訳

翻訳

実施

現地調査、意見交換会等の実施

各国政府代表、国連機関、NGO等

通 訊

藤前干潟
鳥獣保護区

伊勢志摩
国立公園

白山国立公園

中部山岳
国立公園

